



ICTを活用した研修コース(JICA沖縄国際センターにて)

し、遠隔教育セミナー用の講義を収録し、配信が始まるようになります。

これらの経験から感じることは、ICTを活用することによって、学習の機会がより多く、広範に提供できる、という紛れもない事実です。人対人でしか伝わらない熱い思いとか、真摯な態度、思いやりと気遣いなど、二人称的関係を築くことは、国際協力の場面のみならず、教育一般に大切な条件です。一方で、たとえ遠隔にいて録画されたビデオを見るだけでも、あるいは肉声を介さない文字によるコミュニケーション(電子メール)だけでも、伝わることはあります。直接会って対話して、二人称的関係を構築したあとでICTを使った交流を継続すると、「私とあなた」の関係を継続することにも役立ちます。また、直接会ったことがない人からのメッセージでも、そこから多くのことを学ぶことはできます。我々が、先祖代々書籍から多くの先人たちの知恵を学んできたように、二人称的関係の人が準備した情報からも、多くのことを学ぶことができるのです。

### 情報格差是正のための課題とは

ICTはどんどん発展するでしょうし、その過程において、開発途上国における情報格差や持続的成長への課題も山積するでしょう。ICTを使う者はどんどん便利になる道具を積極的に使うことでますます便利になり、使わない者はその恩恵に預かれずに放置されるとすれば格差は広まる一方でしょう。放置すれば恩恵に預かれそうもない人たちにこそ、積極的にICT利用を促進し、彼らの発展に寄与するような工夫を教え、利用を持続させるための支援を続けることが肝要だと思います。国際協力のあらゆるプロジェクトにおいて、ICTをいかに組み入れ、活用していくのかをまずは考えましょう。その中核には、ICTを利用して新しいことを知り、学び、情報を交換しあい、また自分から発信する、というe-Learningの発想を据えるべきです。国内外における人対人の自身の交流とICT利用による学習の継続をどのように組み合わせるのが最も効果的かについて、その中で考え、試行錯誤し、良い知恵を共有することが大事だと思います。

「e-Learningの可能性を

現するのは、教育設計・ICT技術・知的財産権・マネジメントの4領域の専門性を兼ね備えたe-Learning専門家である」。そのコンセプトで平成18年4月に、e-Learningによるe-Learning専門家養成の大学院「教授システム学専攻」を熊本大学は我が国で初めて創設しました。企業内教育や高等教育での成人学習を主たるターゲットにして、e-Learningのプロを目指す社会人が、仕事を抱えながら、熊本に当たり担当教員に直接会ったりしないでどこまで学習が可能かという難題にチャレンジしています。この輪が国際協力分野にも広がることを期待しています。



ICTの活用で、より多くの学習機会と広範な提供が可能になる(JICA沖縄国際センターにて)



### すぎき かつあき

昭和34年千葉県市川市生まれ。国際基督教大学教養学部卒業。同大学大学院修士課程修了、米国フロリダ州立大学大学院教育学研究科博士課程修了、Ph.D取得。東北大学大学院講師、同大学大学院助教授、教授、岩手県立大学ソフトウェア情報学部・大学院ソフトウェア情報学研究科教授を経て、平成18年より現職。日本教育メディア学会理事、日本e-Learningコンソーシアム名誉会員などを務める。主著に、『教材設計マニュアル』『教育工学を始めよう(共訳・解説)』『インストラクショナルデザインの原理(監訳書)』がある(いずれも北大路書房)。